

ともに歩んで50年

金婚をお祝いする会

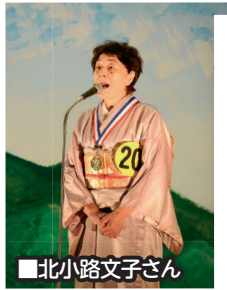
10月10日、「金婚をお祝いする会」が美郷町公民館で開催され、ことしで結婚50周年となるご夫婦15組が出席しました。当日は町内のコーラスグループによるお祝いの歌が披露されたほか、「不思議と笑いで脳に刺激を!」と題した、ブラボー中谷氏によるマジックショーが行われました。これからも夫婦仲良く元気にお過ごしください。



■ブラボー中谷氏(右)



不思議と笑いで脳に刺激を!



■北小路文子さん



■川村辰美さん

自慢の唄声を披露

第29回 民謡「長者の山」全国大会

10月12日から13日にかけて、「第29回民謡『長者の山』全国大会」が美郷町北体育館で開催されました。ことしの大会には過去最高の158人がエントリーし、ジュニア・熟年・一般の3部門に分かれて自慢の唄声を披露。美郷町からは10名がエントリーし、予選を勝ち上がった北小路文子さん(米ノ口、熟年の部)と川村辰美さん(下前郷、一般の部)の2名が、2日目に行われた決勝に進出しました。

図書館に親しみを

2019美郷町読書フェスタ

10月14日、「2019美郷町読書フェスタ」が美郷町学友館で開催されました。町内ボランティアによる読み聞かせやバルーンアートなどのほか、マーガレット一家「たっちゃんの紙芝居ライブ」が行われました。熱血紙芝居師と称される川上竜生さん(通称:たっちゃん)が作成したオリジナル紙芝居のライブで、会場に集まった多くの親子連れを楽しませました。また、同フェスタ内で「心に残った本の紹介コンクール」の表彰式が行われ、次の皆さんが最優秀賞を受賞しました。



■たっちゃん

心に残った本の紹介コンクール

■中学校の部

田丸 舞 さん(美郷中1年)

■小学校低学年の部

佐藤 頼 さん(六郷小3年)
田口 璃空 さん(千畑小2年)

■小学校高学年の部

佐藤 琴羽 さん(六郷小5年)
深澤 萌々 さん(千畑小5年)

■高等学校の部

高橋 恵理 さん(六郷高3年)

■一般の部

熊谷 順子 さん(新町)

安全・安心の町を目指して

美郷町防犯協会発足15周年記念式典



10月19日、美郷町防犯協会(齊藤新一郎会長)の発足15周年記念式典が美郷町中央ふれあい館で行われ、同協会の会員や美郷町老人クラブ連合会の会員などが出席しました。式典では、大仙警察署高齢者安全安心アドバイザーが特殊詐欺被害防止に関する寸劇を披露したほか、大仙警察署生活安全課の藤山育子課長が「地域の絆で特殊詐欺防止」と題して講演し、出席者の皆さんに注意を呼び掛けました。

芸術の秋、芸能の秋

美郷町芸術文化協会芸能発表会

10月20日、美郷町芸術文化協会芸能発表会が美郷町公民館で開催されました。ラベンダーが有名な美郷町をイメージして作られた楽曲「雪華ラベンダー」を歌った雁の里コーラスをはじめ、美郷町芸術文化協会に加盟している17団体がさまざまな演目を披露しました。会場には多くの観客が集まり、各団体の発表を楽しみました。



MISATOPICS

町の話



タイ王国との交流

タイ王国は常夏の国!

連日の猛暑に見舞われた夏も終わり、季節は秋へと変わりました。朝晩の冷え込みも日増しに強まり、美郷町も秋本番の様相を呈しています。気象庁のホームページによると、秋田県の11月の平均気温は7.9℃で、天候次第ではコートなどの防寒具が必要となるくらいの気温の低さです。

一方、タイ王国は現在「乾季」の季節に入っています。乾季になると暑さが落ち着くということですが、11月であっても平均気温は約27℃、最高気温は30℃を超える日もあるそうです。写真はタイ王国の様子を11月に撮影したのですが、多くの人が夏に着用するような半袖や半ズボンを身に付けています。気温の高さや服装から、タイ王国が常夏の国であるということが分かります。



他方、先月はW杯バレーボールも、ほぼ同時期に試合が繰り広げられました。ご家庭に

ラグビーW杯、みなさんもテレビ等を通じて試合をご覧になったものと思います。私もテレビで観戦しましたが、日本チームの試合はすべて観ました。おもしろかったです。その中で、予選プールのアイルランド、スコットランドとの試合には感動しました。特に決勝トーナメントに進めるかどうかのスコットランドとの試合は、後半の攻防にハラハラドキドキし、とても熱くなりました。

よってはラグビーかバレーボールか、チャンネル争いという家族内ゲームもあったかも知れません。こちらも日本チームは好ゲームを展開し、観ていて熱くなりました。特に女子バレーには、秋田県出身のセッター佐藤選手が出ていましたので、自然に応援に力が入ったのは私だけではなかったと思います。このように観戦で心が熱くなるのは、一つは勝たせたいという勝負に関する気持ち、つまり本能的な生き残り意識が働くからだろうと思います。もう一つは日本だからというアイデンティティに関する気持ち、つまり

帰属意識が働くからだろうと思います。事実、日本チーム以外の対戦では、どちらか勝たせたいという思いはあったものの、日本チームに対するそれとは明確に違っていました。この帰属意識、言い換えれば「心の拠り所」を日本に感じる意識だろうと思います。さらに申せば、拠り所の意識があるからこそ自己の意識、つまり心がしっかりとするということなのだろうとも思います。そう考えれば、県民、町民でもある私たちは、県や町にも拠り所意識をきちんと持つことが大切で、それによって心はさらにしっかりとし、結果、自己肯定感も高まるものと思うところです。その意味で今月は町民には大切な月です。節目として美郷町の来し方を振り返りながら、改めて町に対する帰属意識を確かめてもらいたいと思います。そして、今後も地域づくりにスクラムを組みたい意欲が湧き起こることを、心より期待したいと思います。

帰属意識

COLUMN WINDS

コラム 風

美郷町長
松田知己



タイ王国/ンタブリー県第一地区初等教育局との教育交流協定締結式にてあいさつをする松田町長